

# 創立100周年 記念事業報告書

編集・発行 九州工業大学総務課  
〒804-8550 福岡県北九州市戸畑区仙水町1番1号  
TEL:093-884-3007 FAX:093-884-3015

発行日 平成25年3月

学長挨拶……………2

明専会会長 挨拶／募金活動と寄附報告……………3

創立100周年記念事業の概要……………4

創立100周年記念式典……………5

創立100周年記念人工衛星開発プロジェクト……………7

21世紀教育基金……………9

21世紀国際人財育成基金……………12

メモリアル事業……………14

## 学長挨拶

九州工業大学は、1909年(明治42年)に私立明治専門学校が創設され、2009年(平成21年)に創立100周年を迎えました。これまでの一世紀の輝かしい歴史と伝統を継承するとともに、次の100年への大きな発展の契機としたいとの信念から、21世紀教育基金と21世紀国際人財育成基金の創設、および中村 孝 氏の巨額なご寄附による百周年中村記念館をはじめとするメモリアル事業を三つの柱とする記念事業を計画し、お陰様で多くの皆様のご理解とご支援を賜り、実現することができました。九州工業大学を代表いたしまして衷心より厚くお礼申し上げます。

明治専門学校の創立経営を託された山川健次郎先生の高い理想のもとに、「本校は単なる技術を授くるの場所に非ずして、人間形成の道場であらねばならぬ」とされ、すなわち「技術に堪能なる士君子」を養成するという開学以来の理念を、九州工業大学は100年余にわたって継承してきました。この伝統は新しい技術や産業を創成するとともに、世界をリードする高度技術者、すなわちグローバル・エンジニアを輩出し、我が国の産業界に貢献する研究成果をあげてきました。

人類社会は地球規模で解決すべき複雑で多様な課題に直面しています。明治専門学校を創設された安川 敬一郎、松本 健次郎の父子の信念、「国家によって得た利益は国家のために使うべきである」を継承している本学は、英知を結集した教育と研究を通して、このような重要な地球的課題を解決することが責務との信念を持ち、使命達成のために活動を続けております。

研究活動による社会的課題の解決は大学の自助努力であるべきと考え、100周年に当たってご寄附いただきました篤志は、次世代の日本および世界を支えるグローバル人材を育成するために活用させて戴くべく、事業の成功に邁進しております。21世紀教育基金並びに21世紀国際人財育成基金による世界に飛翔する人財の育成は本学の誇りであります。特に、本学で学んだ技術者・研究者は近未来の我が国を支える人材として活躍することにより、本学の使命を達成しつつあると確信しています。

あらためまして、100周年に際して九州工業大学に対してご醸金を賜りました皆様と、記念事業の推進にご尽力賜りました明専会をはじめとする関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



九州工業大学 学長  
松永 守央

## 明専会会長 挨拶



(撮影:住友一俊氏)

明専会 会長  
山本 一元

母校創立100周年の募金活動の検討は、平成15年、年初から始められていました。大学の記念事業を成功させたいとの思いは一つでしたが、90周年募金の負の残滓も若干残っていて総意としてまとめるのに少々時間を要しました。

募金の受付は大学でも明専会でも良しとして活動に踏み出しました。

企業廻りは卒業生が諸先生の先導役を務める、学部、年次、クラブ等々あらゆる関係を洗い出し募金を呼びかける、会員各位の献身的な努力なしにはできない活動でした。

高度成長真只中の75周年と打って変わった世相の中での厳しい日々の連続でした。

明専会に寄せられた寄附金は、建学の精神を不易なものとして次世代に継承し、幅広い教養を身につけ実践力のある人材を大学と共に育成する「交流の場」の基金として活用いたします。また、中村孝先輩の巨額な寄附での百周年中村記念館は旧本館跡地に建設され、平成25年3月に開館いたします。交流の場第一陣の「明専塾」も盛況裏に40回になろうとしています。

新時代の「技術に堪能な土君子」の出現を期待し、各位の浄財を活用させていただくことを誓い、改めて御礼申し上げます。

## 募金活動と寄附報告



募金活動発足式

平成18年10月から平成22年9月の間に行った募金活動では、卒業生・教職員はもとより産業界、各界の幅広いご支援を賜り、誠にありがとうございました。

お陰様をもちまして、募金総額は下記の通りとなり、目標の10億円を大きく超えて達成いたしました。

お寄せいただいた浄財は、本学学生のため、また本学が次の100年においても我が国において必要とされる大学であるため、様々な事業の貴重な財源として活用させていただいております。

大学		明専会		中村 孝様より
(企業196社、個人1717名)		合計	1億8052万円	5億円 (百周年中村記念館 建設費用として)
合計	4億5680万円			

## 創立100周年記念事業の概要

### 21世紀教育基金

創造的思考能力、問題解決への情熱を有し、技術と経営を理解し実践できる基礎力を持った創造的人材の育成、“人づくり”をコンセプトとして次の事業を実施しています。

#### ●創造学習支援事業

学生の課題探求とその解決能力を涵養し、工学基礎力と共に、コミュニケーション能力、情報処理能力、企業マネジメント能力、及び幅広い教養を身につけ、企業・社会において先導的リーダーシップを発揮できる創造的人材を育成する事業です。

1. グループ創造学習支援事業
2. 創造学習支援組織整備事業

#### ●中核的教育研究拠点大学院学生支援事業

経済的な負担を軽減し、安心して学べる環境を整備して、優秀な人材を多く確保し、教育研究を進展させることを目的とした、博士後期課程社会人学生、博士後期課程外国人留学生への奨学事業です。

### 21世紀国際人財育成基金

本学の先導的研究を中心に国際交流拠点を形成し、教育研究の国際化、高水準化を図ると共に、学生の国際理解能力を養成し、世界に通じる先導的技術者(グローバルエンジニア)の育成に努めます。

また、半導体、自動車産業などのリーディング産業の集積する九州を背景として深化するアジア地域との交流を念頭に、“アジアとの共生”を課題として教育研究拠点の形成を目指します。

- 海外研修事業
- 教育研究国際交流拠点形成事業

### メモリアル事業

- 九州工業大学百年史の編纂
- 記念式典
- 新しいシンボルマークを制定
- 人工衛星開発プロジェクト
- 100周年記念寄附講座
- オーケストラ用編曲による学歌録音
- 記念イベント
  - ①「安川敬一郎と戸畑」企画展
  - ②記念講演会
- 百周年中村記念館を開館



# 九州工業大学 創立100周年記念式典



式典会場の様子



祝賀会の様子



新しいロゴマークを披露



寮歌、学歌斉唱

## KYUTECH 100TH anniversary 創立100周年記念式典

平成21年5月28日(木)14時より、リーガロイヤルホテル小倉(北九州市小倉北区)において、九州工業大学創立100周年記念式典を挙行了しました。



下村 輝夫 学長(当時)式辞

式典には、卒業生や各界の関係者など約750名のご臨席を賜りました。

下村 輝夫 学長(当時)より「これからも『知の源泉』であるナショナルセンター及びリージョナルセンターとして、地域社会と国民の要請に応え、教育と研究を通して知と文化の情報発信を続け、次世代産業の創出・育成に貢献する個性豊かな工学系総合大学を目指してまいります」と式辞が述べられ、麻生 太郎 総理大臣(当時・代読)、塩谷 立 文部科学大臣(当時・代読)、麻生 渡 福岡県知事(当時)、山本 一元 明専会会長より祝辞をいただきました。

式典に引き続き、内閣府総合科学技術会議常任委員で、元東京工業大学学長の相澤 益男 氏を迎え、「イノベティブな日本を創る」と題して記念講演を行いました。

記念講演終了後、祝賀会を開催。引き続き大勢の方にご参加いただきました。北橋 健治 北九州市長、齋藤 守史 飯塚市長、向野 敏昭 直方市長より祝辞をいただき、(株)安川電機社長(当時)の利島 康司 氏に乾杯のご発声をお願いしました。

また、新しいロゴマークの披露が行われました。下村学長の除幕によりパネルが披露され、「本学とともにこのロゴマークにも愛着を持っていただきたい」と述べられました。

最後に、本学卒業生の皆様と本学合唱団メンネルコールが登場。出席者の皆様とともに寮歌、学歌斉唱し、盛会のうちに幕を閉じました。



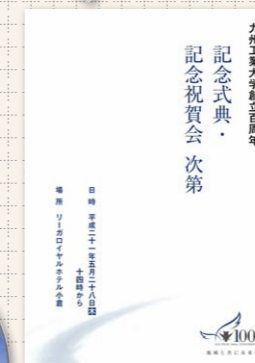
山本 一元 明専会会長祝辞



▲式典の記念グッズ



▲創立100周年記念 CD



▲式典プログラム

### 記念講演会

講師：内閣府総合科学技術会議議員(当時)  
元東京工業大学学長

相澤 益男 氏

題目：「イノベティブな日本を創る」



相澤 益男 氏

### 当時に振り返って

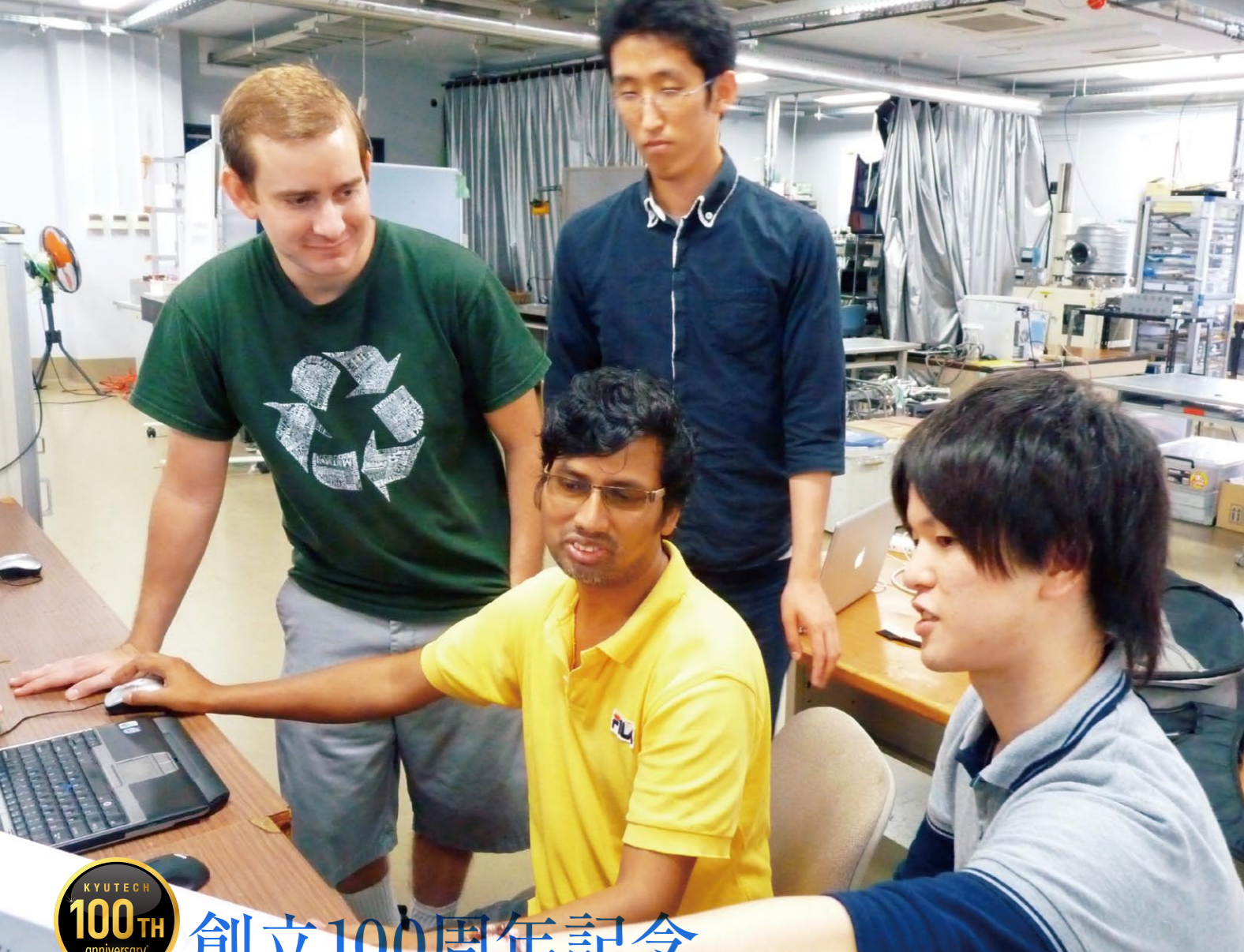
福岡工業大学 下村 輝夫 学長

創立100周年記念式典は、ひとつの象徴ではありませんでしたが、根底には募金事業、事業の構築、百年史編纂などがありました。同窓会であります「明専会」には、すべての事柄に対して絶大なる支援を賜りました。まさに、「栄えある母校」と「巨人の愛の学窓」への熱情で支えて戴き、深甚なる感謝を改めて申し上げます。

さらに、明専一九工大に御縁のありました数多くの教職員の方々の強い思いも、優るとも劣らないものでありました。重ねて御礼申し上げます。

幸いでありましたことは、経済状況が今日ほど悪くはなかったという点です。100周年という節目を通じて、先生と職員の、そして先輩と後輩の絆が一段と強まったと思います。九工大が次のステージに向けて、更なる飛躍をされますことを確信いたしております。





KYUTECH  
100TH  
anniversary

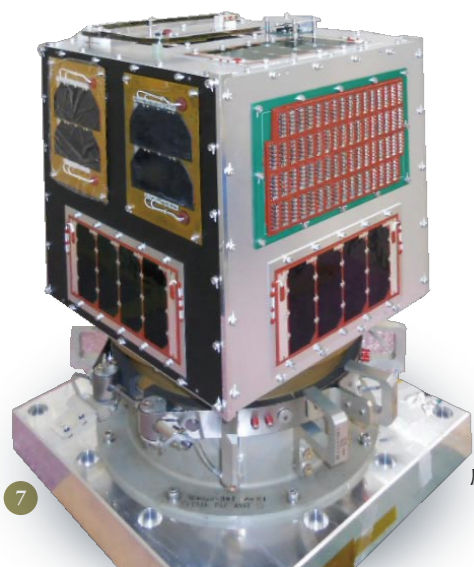
# 創立100周年記念 人工衛星開発プロジェクト

2012年7月8日。学生達が作った人工衛星「鳳龍弐号」が宇宙空間で300V高電圧発電に成功し、「世界初」を達成。1つになったチームの思いが、来るべき宇宙時代に確かな一歩を刻みました。

## JAXA「H-IIA ロケット」に相乗り

本学の衛星開発プロジェクトは、創立100周年記念事業で人工衛星を打ち上げることを目的に、2006年にスタートしました。小型衛星「鳳龍弐号」を開発しましたが、打ち上げには至らず、弐号のシステムを活かす形で、新たに宇宙実験用の機器を搭載した「鳳龍弐号」の開発に着手。趙孟佑教授の指導のもと、約20名の学生達の手でプロジェクトが進められました。

そして2010年10月、鳳龍弐号は、JAXA(宇宙航空研究開発機構)が提供する人工衛星打ち上げ用の「H-IIAロケット」に相乗りする小型衛星として選定されたのです。



鳳龍弐号

## 学生達の手で「世界初」の快挙!

鳳龍弐号のメインミッションは、宇宙空間における300Vの高電圧発電の実証。世界中で未だ誰も解決していない課題への挑戦でした。そこには、弐号から託された思いと、現在の宇宙開発に足跡を残したいという情熱がありました。

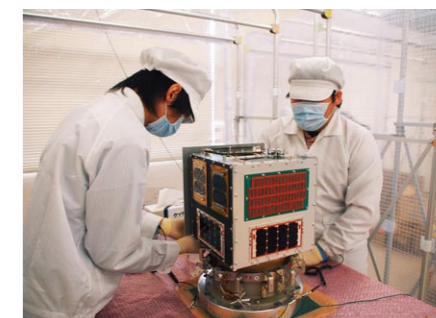
本学では、実際の様々な宇宙環境を模擬し、試験することが可能な「超小型衛星試験センター」を設置。そこで何度もテストを繰り返し、ついに2012年5月18日未明、鳳龍弐号は種子島宇宙センターから飛び立ちました。

そして同年7月8日、世界初の300V高電圧発電に成功。それまでの最高値、国際宇宙ステーションの160Vを超える快挙を成し遂げたのです。

## これからの宇宙開発へ大きな一歩

「学生が主体となって、ものづくりで最も難しいとされる衛星開発をやり遂げました」と趙先生。「将来、月面基地や宇宙ホテルをつくることも夢ではなくなった」と。学生達は宇宙開発に多大な貢献をしたと言えるでしょう。

彼ら自身もまた、システム工学そのものはもちろん、プロジェクト管理能力、コミュニケーション能力など、将来に役立つ揺るぎない力を手に入れたはず。ものづくりの厳しさや面白さ、チームで1つのことを達成する難しさと素晴らしさを知った彼らは、技術者として、さらに大きな足跡を未来に刻むことでしょう。



クリーンルーム内での衛星組立作業



打ち上げ当日のパブリックビューイング



鳳龍弐号が撮影した地球



プロジェクトマネージャー  
岡田 和也 さん

大学院工学府 先端機能システム専攻 博士前期課程2年

私が人工衛星「鳳龍」プロジェクトに関わるようになったのは、九州工業大学100周年記念事業としての鳳龍弐号の開発が終わり、JAXAのH-IIAロケットへの相乗り公募に申し込みをしているときからでした。JAXAの各設計フェーズにおける審査をクリアするために検証実験を繰り返したり、提出書類を作ったりと、あらゆる面で苦難の連続でした。

ようやく迎えた打ち上げ当日、初代鳳龍の開発から関わっていた先輩達も大学に帰ってこられて、打ち上げと一緒に見守りました。先輩たちが代々作り上げてきた衛星ですから、絶対失敗できないという責任を感じていたので、鳳龍弐号が無事軌道投入されたとき聞いた時は安心しました。

打ち上げ後は鳳龍弐号が軌道上を動いているのを確認できていましたが、6月5日にOBC(オンボードコンピュータ)系の暴走あるいは停

止というアクシデントに見舞われました。原因は放射線の影響が考えられます。しかし、7月3日にOBCの不具合に起因するバッテリーの電圧低下(シングルイベントラッチアップにより電力収支が負になったこと)によりOBCが瞬時停止することによって奇跡的にOBC系が機能を取り戻しました。

そして、7月8日にメインミッションである300V発電実験を行い、衛星から送信されてきたデータを解析したところ、60分間に亘って実験機器は正常に動作し、その内30分の日照時間中に330から350ボルトの電圧で安定して発電していることを確認しました。今回の成功は宇宙開発における大きな一歩であり、とても嬉しく思っています。

このプロジェクトを通して、ものづくりの大変さやチームとして動くことの大切さを知りました。一人ではできないことも、チームで力を合わせればできる。素晴らしい体験をしたと思っています。

# 21世紀教育基金

## グループ創造学習支援事業

学生の課題探求とその解決能力を涵養し、工学基礎力と共に、コミュニケーション能力、情報処理能力、企業マネジメント能力、及び幅広い教養を身につけ、企業・社会において先導的リーダーシップを発揮することのできる創造的人材育成事業です。

## 全日本ロードレース選手権 GPレーサープロジェクト

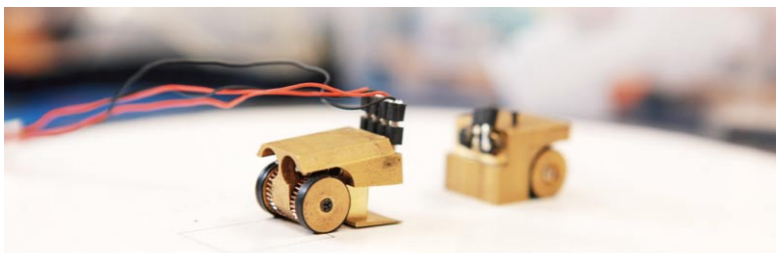


当チームは、前輪に独自のリンクサスペンションを持つオリジナルレーシングマシンを開発、2007年から全日本選手権に出場し、毎年好成績を収めています。マシンは、ヒガシエンジニアリングと共同開発を行い、学内で素材を加工して製作したフレームなどから組み立てられており、最高速は200km/h以上に達します。九州選手権では、2009年、2010年と2年連続でシリーズチャンピオンを獲得しました。



## マイクロメカニズムプロジェクト

学生チームで15mm四方で約20gの小さなロボットの機構や構造の発案、設計、作製に取り組み、国際マイクロメカニズムコンテストに出場。平成23年度の大会ではみごと準優勝を勝ち取りました。ロボットというテーマの中で、海外の大学との交流や様々な困難を乗り越えて目標を達成するという、貴重な素晴らしい経験をする事ができました。



## つくばチャレンジ参加プロジェクト



本プロジェクトでは2台の自律走行ロボットを制作し「つくばチャレンジ」に出場しました。私達のロボットは、通行人・障害物・他のロボットを回避しながら、雨天荒天でも1km以上の市街地を自律走行することができます。平成22年には70チーム中12番目の長距離走行(815m)を達成しました。平成25年には、走行距離と難易度を増した新しいつくばチャレンジが再開される予定です。このチャレンジに出場するために、私達は現在もロボットの改良を重ねています。

## 学生フォーミュラ「KIT-Formula」

私たち「KIT-Formula」チームは、「全日本学生フォーミュラ大会」に平成17年の第3回大会から参加し、平成24年で8回目の参加となります。車両の設計・製作を行う車両班と、渉外活動・各種書類作成を行う事務班が並行して活動を行い、毎年地道にマシンを構築しています。その結果、平成23年には総合成績9位を獲得し、平成24年までに4年連続の全種目完走(日本自動車工業会会長賞)を果たしました。



## 里山再生プロジェクト



近年の竹の繁殖によって荒廃した里山を、学生メンバーと自治体、子どもたち、地域の方々が連携して少しずつ再生してゆくプロジェクトです。地域の方々との定期的な竹林整備や、小学生を対象とした里山管理に関する環境ワークショップの開催、自治体と連携した竹林管理・地域振興を目的としたイベント「竹の座」の開催など、竹の有効活用や地域貢献を目的とした様々な活動を継続しています。

## 鳥人間コンテスト選手権大会 チーム「KITCUTS」



私たちのチーム「KITCUTS」は、鳥人間コンテストの人カプロペラ飛行機部門に出場し、好成績を収めることを目標に日々の活動を行っています。平成16年から参戦し、大会中止や書類審査不合格などを乗り越え、平成22年の第33回大会ではチーム最高となる198.25mを記録しました。現在は、平成25年夏の第36回大会出場に向けて、機体の設計・製作にチーム一丸となって取り組んでいます。



## 電気自動車製作プロジェクト

私たちのチームは、コンパクト電気自動車(ガソリン自動車のエンジン等を車体から取り外し、モーターやバッテリーを積み込みモーター駆動にコンパクトした電気自動車:Electric Vehicle:EV)を製作しています。平成24年8月には公道を走行するレース(四国EVラリー2012)へ初めて参加し、鉛酸バッテリーを搭載、充電用電源単相200V以下の学生カテゴリーにおいて優勝を果たしました。



### 平成21年度～平成24年度 グループ創造学習支援事業採択一覧

採択年度	プロジェクト名	指導教員	採択年度	プロジェクト名	指導教員
H21	IQプロジェクト～見せます!華の地元企業～	仲間 浩一	H21～H24	学生フォーミュラ「KIT-Formula」	河部 徹
H24	陸前高田市今泉復興支援	徳田 光弘	H24	全日本学生フォーミュラEV大会出場プロジェクト	大屋 勝敬
H21～H24	全日本ロードレース選手権GPレーサープロジェクト	西川 宏志	H22～H24	つくばチャレンジ参加プロジェクト	西田 健
H24	電気自動車製作プロジェクト	ガチョンソルソン パーネット	H22～H24	KIT Can Sat Project	趙 孟佑 豊田 和弘
H21～H24	マイクロメカニズムプロジェクト	伊藤 高廣	H22～H24	衛星開発プロジェクト	趙 孟佑
H21～H24	里山再生プロジェクト	伊東 啓太郎	H21～H24	ARLISS(A Rocket Launch International Student Satellites)	平木 講儒
H23～H24	北九州情報セキュリティ勉強会「セキュ鉄」	井上 創造	H24	A.C.P.(Android Creation Project)	小林 順
H21～H24	鳥人間コンテスト選手権大会	平木 講儒			

## 中核的教育研究拠点大学院学生支援事業

経済的な負担を軽減し、安心して学べる環境を整備して、優秀な人材を多く確保し、教育研究を進展させることを目的とした、博士後期課程社会人学生、博士後期課程外国人留学生への奨学事業を実施しています。

平成21年度から24年度の4年間で、合計141名の博士後期課程社会人学生、博士後期課程外国人留学生への支援を行いました。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	合計
博士後期課程社会人学生	23	20	25	21	89
博士後期課程外国人留学生	4	12	17	19	52
合計					141

# 21世紀国際人材育成基金

## 海外研修事業

21世紀国際人材育成基金 研修派遣人数(平成21年度～平成25年1月)

	派遣先	工学部	情報工学部	生命体工学研究科	合計
平成22年度	シドニー工科大学(オーストラリア)		1		1
	フレインダース大学(オーストラリア)		1		1
	モナッシュ大学(オーストラリア)		1		1
	オークランド工科大学(ニュージーランド)		3		3
	ビクトリア大学(カナダ)		2		2
	オールドドミニオン大学(アメリカ)	8			8
	サリー大学(イギリス)	8	2	2	12
平成23年度	ウーロンゴン大学(オーストラリア)		1		1
	ビクトリア大学(カナダ)		1		1
	サリー大学(イギリス)	7	4	1	12
平成24年度	サリー大学(イギリス)	7	5		12
	ビクトリア大学(カナダ)		3		3
	ウーロンゴン大学(オーストラリア)		1		1
	タマサート大学シリンドホーン国際工学部(タイ)		1		1
	キングモンクット大学北バンコク校(タイ)		1		1
	Nihon Technology Private Limited(インド)		1		1
	合計		30	28	3

## 教育研究国際交流拠点形成事業

教育研究国際交流拠点形成事業として、サリー大学(イギリス)、プトラ大学(マレーシア)の整備を行いました。

## 海外研修事業レポート



中村 基裕 さん

情報工学部 知能情報工学科 3年

2012年9月3日から9月27日まで、カナダのビクトリア大学で行われた一般語学研修に参加しました。

大学での授業は午前と午後の2部に分かれていました。午前クラスでは文法などの基本的な知識やリスニングの練習をし、午後クラスではスピーキングをテーマにしてゲームをしたり、イディオムを学習したりしました。私は、たった1ヶ月の短い研修期間を有意義に過ごしたいと考えていましたので、授業中は積極的に発言をするよう心がけました。また、この1ヶ月プログラム中は英語での会話が義務付けられていたので、日本人同士でも英語で会話をしました。

ビクトリア大学のキャンパスは大変広く、九工大の飯塚キャンパスの約5倍の大きさがありました。学生はとても勉強熱心で、キャンパス内のいろんな場所にある学習施設やカフェ、また図書館などで多くの学生が席を取り合うように勉強していました。そんな姿を見て私は非常に感銘を受けました。

研修期間中はホームステイをさせていただきました。週末にはサッカー

の試合に行ったり、バーベキューをしたりと、生活の中でも英語を学びながら多くのことを経験させていただきました。また、同じホストファミリーにお世話になった韓国人のルームメイトともすぐに打ち解けることができ、彼とは今でも交流を続けています。

今回の語学研修プログラムでは、英語力の向上はもちろんのこと、異文化の学習や人間関係を広げることなど、得たものはとても大きいと思います。これら得たものを今後の九工大での学生生活に活かし、工学の勉強や英語の勉強に励んでいこうと思います。



ホストファミリーの皆さんと



Mt. Douglasの山頂にて



川原 庸資 さん

大学院工学府 機械知能工学専攻 博士前期課程2年

2012年8月18日からサリー大学へ約3週間の短期語学留学をさせていただきました。

3週間の授業では午前中にイギリスの文化や日常会話など、午後は技術英語を学びました。ネイティブの先生による授業は非常に有意義なものであり、発音や表現のニュアンスなどを学ぶことができるため、とても充実していました。初めは先生の英語をあまり聞き取れず、理解することができませんでしたが、3週目にもなると耳が慣れてきて初め

の頃よりも聞きとることができるようになりました。

授業だけでなく現地の方の家に訪問するホームビジットも今回のプログラムに含まれています。イギリスの家庭料理やティータイムなどを体験したり、教会でのミサに参加させてもらうなど日本では体験することのできないことや、考え方などを知ることができました。

最終日には自分の研究とイギリスを関連させての発表がありました。英語での発表は大変でしたが、発表の練習も授業で行っていたので楽しく発表することができました。

この短期留学の3週間で英語力が格段に上がったとは言えませんが、自分の英語力の乏しさ、世界での英語の重要性、文化の違いなど多くのことを学ぶことができました。英語を使う環境に自分の身を置くことで、英語に対するモチベーションがとても上がりました。

最後に、今回の英語習熟プログラムにおいて100周年記念事業により奨学金を援助していただいた大学、並びにコーディネーターであるIan Ruxton先生に心より御礼申し上げます。



授業風景



一緒に参加した九工大のメンバーと

## メモリアル事業

## 新しいシンボルマークを制定

創立100周年の節目として、学内公募によりシンボルマークを制定しました。

原作者は、工学部建設社会工学科4年(当時)の澤野 大地 氏。澤野氏の原案を、プロデザイナーがモディファイしました。

平成21年5月28日に開催された創立100周年記念式典にて、新しいシンボルマークとロゴのデザインが正式に披露されました。



A(ction) V(alue) K(yutech)の頭文字をユニットにしフレッシュで斬新なイメージのカラー使いで未来へ羽ばたいていく学生やこれからリードしていく大学を表現しました。

## 制作コンセプト



これからの未来、これからの100年  
「動作・活動」=Action



今までの歴史、今までの100年  
「価値・値打ち・評価」=Value



未来と歴史を1本にボルトのモチーフでつなぎとめて、全体として1本の太い棒にしています。貫かれた大学方針を表しています。



学生の飛躍感や、社会・世界へ飛び出していく元気のよいイメージ。上記と組み合わせ、九州工業大学の頭文字「K」の形になります。

## Kyutech Blue



澄みきった明るい空の色。  
清涼感とともに、のどかな雰囲気と漂わせます。  
C. 65 M. 5 Y. 0 K. 0

## Kyutech Green



自然の緑の中でも若葉を連想させる色なので、若々しさや快活さ、フレッシュなイメージをあたえます。  
C. 40 M. 0 Y. 100 K. 0

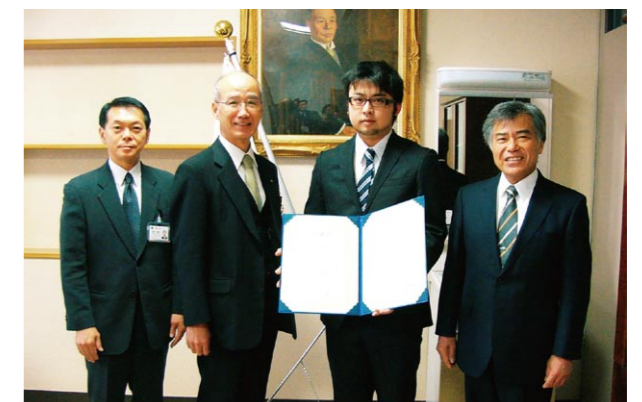
## Kyutech Pink



赤色の「エネルギー」とピンク色の「やわらかさ」を合わせ持った色。  
人を惹き付ける華やかさ、エレガントな雰囲気を表現。  
C. 5 M. 75 Y. 0 K. 0

## 考案者へ感謝状贈呈

平成21年11月5日(木)、本学のシンボルマーク考案者への感謝状贈呈式を行いました。



下村学長(当時)より考案者の澤野さんへ感謝状を贈呈



## 九州工業大学百年史を編纂

主として、私立明治専門学校の創設(1907年・明治40年)から平成19年までの本学の歴史をまとめ、「九州工業大学百年史」を編纂いたしました。平成16年より編集委員会を中心に企画を開始し、編集のための資料収集整理には、学外のボランティアの方にご協力いただきました。



「九州工業大学百年史」  
● 通史編  
● 資料編  
発行日：平成21年3月31日

### 附属図書館史料室ボランティアへ感謝状贈呈

平成21年7月10日(金)、九州工業大学百年史編集にかかる史料収集および整理にご協力をいただいたボランティアの方に、下村学長(当時)より感謝状が贈呈されました。



## 特別番組を制作

平成21年5月26日(火)から5月29日(金)にかけて、本学3キャンパスなどにおいて、創立100周年記念特別番組の撮影が行われ、下記の日程で放送されました。下村学長(当時)とノンフィクション作家山根一真氏との対談、100周年記念式典の様子、九工大の研究紹介、在学生や卒業生へのインタビューなど、全編本学の内容で制作されました。

番組名：踊るモノづくりキャンパス「九州工業大学100年のチカラ」  
放送日：平成21年6月14日(日)(TVQ九州放送)10:30~11:25  
平成21年6月28日(日)(BSジャパン)15:55~16:50



下村学長(当時)と山根一真氏との対談の様子

## 創立100周年記念CDを制作

九州工業大学吹奏楽部、九州工業大学メンネルコール、九州工業大学交響楽団の演奏により、学歌を収録したCDを制作しました。CDには本学建学の祖である山川健次郎博士の発明協会での演説「愛国心と尚武心」も収録しました。



- 学歌**
- 斉唱 フルバージョン
  - 斉唱 ア・カッペラ
  - カラオケバージョン
  - 歌：九州工業大学メンネルコール
  - 演奏：九州工業大学交響楽団・九州工業大学吹奏楽部

- 演説**
- 山川 健次郎 博士  
「愛国心と尚武心」  
1923年(大正12年)5月11日 発明協会での講演を収録  
発行日：2009年2月28日

## 企画展

### 「安川敬一郎と戸畑 ～明専のあるまち～」

平成21年10月13日(火)から平成22年1月13日(水)まで、九州工業大学創立100周年を記念して、本学の前身である私立明治専門学校(明専)の創立者安川敬一郎氏の事績と、安川氏と明専が戸畑の近代化に果たした役割、当時の戸畑の様子などを紹介する企画展「安川敬一郎と戸畑～明専のあるまち～」が開催されました。10月9日(金)にはプレオープンが開催され、松本戸畑区長(当時)をはじめ、地域の学校や住民の皆様にお越しいただきました。

企画展の開催にあたり、下村学長(当時)が挨拶。引き続き、いのちのたび博物館学芸員の日比野氏より、企画展の趣旨と展示物の説明がありました。

開催期間中は、多数の市民の皆様が会場を訪れました。



会場：学生支援プラザ

- 開催期間：平成21年10月13日(火)から平成22年1月13日(水)までの平日
- 開館時間：10時から12時、13時から16時30分
- 会場：本学戸畑キャンパス 学生支援プラザ2階大学歴史資料室
- 主催：九州工業大学、いのちのたび博物館、戸畑区役所



下村学長(当時)挨拶



下村学長と松本戸畑区長(当時)(右)



いのちのたび博物館日比野氏(中央奥)による説明

## 100周年記念寄附講座

### 「エコ・ハイブリッド ウエルディング(SANKYU)」を設置

平成21年4月1日、本学大学院生命体工学研究科では、「100周年記念寄附講座 エコ・ハイブリッド ウエルディング(SANKYU)」を設置しました。

山九株式会社のご寄附による本寄附講座は、溶接・接合技術分野の新技術を創出し、省エネ、環境負荷の低減、コスト削減を目指した教育研究を進めていくことを目的として開講しました。



中村代表取締役社長と下村学長(当時)

## 100周年記念学術講演会を開催

平成21年11月6日、戸畑キャンパス記念講堂において、九州工業大学100周年記念学術講演会を開催し、本学の学生、教職員、学外の方など、400名以上が参加しました。

講師には、宇宙航空研究開発機構(JAXA)理事長の立川 敬二氏をお招きし、「日本の宇宙開発」と題して講演いただきました。

講演では、日本の宇宙開発の現状と今後の計画などについて説明があり、宇宙利用に関する研究が通信・放送や気象観測だけでなく、災害対策や環境対策などの様々な分野において進められていることなど、非常に興味深い内容に、参加者は皆、熱心に耳を傾けていました。

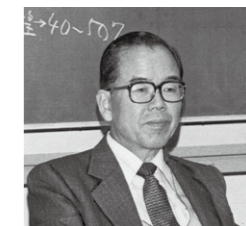


宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事長 立川 敬二氏



## 百周年中村記念館

本学の創立100周年を迎えるにあたり、本学の卒業生である中村 孝氏より「母校創立の精神と、明専~九州工大と連なる輝かしい伝統に想いを馳せ、100年の歩みを伝えるような記念館を、創っていただくようお願いいたします」との書信とともにご寄附をいただいたことに端を発し、記念館の建設を企画いたしました。母校の永続を願った中村氏の想いを継承し、在学生・卒業生だけでなく、企業や地域の皆様も利用できる本学の新しいシンボルとして、平成25年3月に開館いたします。



[寄附者 中村 孝氏 略歴]

大正 6年(1917年) 12月	山口県徳山市に生まれる
昭和15年(1940年) 3月	明治専門学校(現 九州工業大学)電気工学科卒業
昭和15年(1940年) 1月	三菱重工業(株)名古屋航空機製作所へ入社
昭和20年(1945年) 11月	フタバ産業(株)設立に参加、常務取締役、監査役などを歴任
昭和25年(1950年) 11月	(株)電元社製作所に入社、専務取締役、代表取締役などを歴任
昭和37年(1962年) 3月	大阪大学にて工学博士
昭和52年(1977年) 11月	黄綬褒章受章
昭和63年(1988年) 4月	勲五等旭日章受勲
平成元年(1989年) 2月	紺綬褒章受章

- 1F
- エントランスギャラリー
  - オープンギャラリー
  - フォーラム
  - カフェテリア
  - 中村ギャラリー
  - 藤田ギャラリー
  - 明専会事務局

#### 建物概要

建築面積: 1,022.41㎡  
 延床面積: 1,447.78㎡  
 構造: 鉄骨造 2階建  
 基本設計: 百年記念館建設委員会  
 株式会社山下設計

- 2F
- 多目的ホール
  - 特別会議室

### 創立100周年記念事業総括

創立100周年記念事業  
 実行委員会委員長  
 前田 博



九州工業大学創立100周年記念募金の折には、多くの皆様方に多大の浄財をお寄せいただき、誠に有難うございました。お陰様で、100周年記念事業も着実に実施され、この度、平成21年度から平成24年度の4年間の100周年記念事業実施報告をお届けする運びとなりました。

21世紀教育基金によるグループ創造学習支援事業は、学生の多様な自主的活動の活性化に繋がり、大きな成果を上げています。21世紀人財育成基金では、海外交流拠点大学として英国サリー

大学、マレーシアプトラ大学を選定し、学生の海外派遣を行っています。学生の海外派遣事業は、世界のグローバル化が進展する中、益々その必要性を高め、今後、大学の事業と合わせていかに充実させて行くかが大きな課題です。メモリアル事業では、「記念式典は良かった」とのお声を多くの方々からお寄せいただきました。また、目玉事業でありました100周年記念衛星「鳳龍」の打ち上げは、当初の予定から2年ほど遅れましたが、機能を拡張した「鳳龍式号」に引き継がれ、2012年5月の打ち上げ成功として実現されました。現在その機能を発揮し、正常に運用されています。

現在、大学を取り巻く環境が大きく変化し、これに呼応して本学の学生教育も変革しているところです。100周年記念事業の内容も、この環境変化に適合するように見直しを進められています。今後とも、大学からの情報発信に努めて行く所存です。

最後になりますが、重ねてご寄附への御礼を申し上げますとともに、九州工業大学を末永くお見守りいただきますようお願い申し上げます。